

# 納期平準化で就業環境改善

## 建コン九州 田中新支部長が就任会見

### 認知度向上へ社会貢献

### 活動展開に三つの方向性

（一社）建設コンサルタンツ協会九州支部は14日、田中新支部長（第一復建棟）の就任会見を開いた。田中新支部長は、会員企業の就業環境の改善や技術力の向上等を図るため、納期の平準化やデジタルトランスフォーメーション等に係る取り組みを着実に進めていくことを強調。さらに災害支援などの社会貢献活動等に対しては、全国組織である強みを生かして「オール九州・オールジャパン」による迅速な対応を図り、地域住民の安心・安全を支える役割を果たしていく意気込みを示した。



田中新支部長  
道な要望活動  
など一を拳  
げ、自身も  
「本社企業と  
支社・支店企  
業の課題を共  
有しながら、  
引き続き会員  
ナリ等の取り  
組みや、各発  
注機関への地  
道な要望活動  
など一を拳  
げ、自身も

田中新支部長は、会見で「就任に際しての抱負」、「九州支部事業運営方針の3つの柱」、BIM/CI/Mなどの「デジタルトランスフォーメーション（DX）」の取り組み等について言及した。

このうち就任の抱負では、自身が初めて理事に就いた14年前より、支部会員数が現在、およそ5割増しの153社となり、さらに当時50社程度であった九州に本社を置く会員は、倍増している状況を説明。その要因について、技術講習会や品質向上に係る地域セ

ミなどを説明。三つの柱が基本となることを説明。

「経営と就業環境」に関する取り組みでは、納期の平準化や発注者からの不適切な指示の撤廃等の事項に言及。これらの課題に関しては「毎年実施している各発注機関との意見交換会等の地道な活動により、一定の成果が表れるなど、好感触を得ている」との見解を示した。

また、平準化についても、一部の自治体で建コン協の目標値を上回るなど、これまでの活動の積み重ねが成果として表われつつあることを説明。「引き続き、具体的な事例を挙げながら、丁寧な説明に務め、さまざまな課題への改善を求めていきたい」とした。

「技術力」に関しては、技術セミナーや現場見学会の実施状況を紹介した。セミナー等は、新型コロナウイルスの影響で、多くの人間が集まること等を理由に中止または延期に

追い込まれる中、九州支部では比較的早く、WEBによる開催にこぎ着けられたことを説明。その要因には、数年前から各種講習会で実施している、オンラインによるサテライト講習の実績を挙げた。

同じくWEBを活用した取り組みでは、例年行われている現場見学会を昨年、遠隔臨場の形式で実施。通常の定員枠を超える約210人が参加するなど、WEBの可能性にも言及し、今後引き続きさまざまな手法で会員企業の技術力向上に係る取り組みをサポートしていく。

「社会認知度」に係る活動では、災害支援をはじめ、九州独自の「夢アイデア」等の取り組みを引き続き進める。災害支援活動では、昨年7月の熊本・豪雨災害で九州地方整備局との協定に基づきテックフォースに同行し、現地調査を実施した。「全国組織である本協会の強みを生かした、活動の一つだと考えている」とし、今後も地域住民の安全・安心を支える役割を果たしていく意気込みを示した。

近年、建設分野においてもその対応が求められる「DX」については、九州支部の今年度事業計画でも、DXに対応したオンライン講習会の拡充を図ることを盛り込んだ。また、BIM/CI/Mについては「国が2023年度までの原則適用化の目標を掲げているものの、地場企業などでは、依然として十分な対応が図られていない」ことに言及。「支部としても、引き続きセミナーの開催等で普及拡大への支援を進めるとともに、情報の収集と提供に努めていく」とした。

田中 清（たなか・きよし）九州大学工学部水工土木学科卒。第一復建棟代表取締役会長。福岡県須恵町出身、68歳。